

平成31年度 第2回中野区総合教育会議

1 日 時 令和元年10月25日(金) 開会：11時00分

閉会：12時02分

2 場 所 区議会第2委員会室

3 出席者 (構成員)

酒井区長、入野教育長、小林教育委員、渡邊教育委員、田中教育委員、
伊藤教育委員

(関係職員)

白土副区長、横山副区長、高橋企画部長、海老沢総務部長、戸辺子ども教
育部長・教育委員会事務局次長、小田子ども教育部子ども家庭支援担当部
長・教育委員会事務局参事(子ども家庭支援担当)、杉本企画課長、石濱
総務課長、永田子ども教育部・教育委員会事務局子ども・教育政策課長、
宮崎教育委員会事務局指導室長

(事務局)

総務部総務課職員

4 議 題 中野区教育大綱等について

5 傍聴人数 5人

6 議事経過

【午前11時00分開会】

[総務部長]

ただいまから本年度第2回の総合教育会議を開催させていただきます。

教育委員の皆様にはお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

本日の議題は、お手元の次第にもありますとおり、「中野区教育大綱等について」でございます。事務局からお手元に配付いたしました資料について説明した後に、ご協議をお願いしたいと考えております。

それでは、議題に移らせていただきます。「中野区教育大綱等について」でございますが、初めに前回の総合教育会議における発言の要旨、中野の学校教育の主な取組みについて、担当から説明した後に、本日は中野の教育がめざす人物像を中心といたしまして、ご協議をいただければというふうに考えてございます。その後、お時間が許せば中野の教育について、全般的にご協議いただければと思っております。

それでは、まず企画課長から説明をお願いします。

[企画課長]

それでは、資料1、前回6月7日に開催しました第1回総合教育会議の発言要旨につきましてご説明いたします。

前回の総合教育会議におきましては、公教育についての考え方や、どのような教育大綱にまとめていくか、教育委員の皆様からお話をいただいたところでございます。基本的理念であるため、基本的には全ての人に対して平等に教育を受ける機会を与えることも考えてほしい。総花的になってはいけない。選択と集中、中野の教育はこれだというものを明確に打ち立てる。中野区はどこを目指すのか。中野らしい全ての人々の目標になる姿をつくる必要がある。公立学校をどのように魅力あるものにしていくか。皆同じで皆良いではなくて、皆違って皆良いという学校教育を展開していかなければいけない。他から比べると学校自体も、学校づくり自体も、非常に地域と関わりが深い。中野は一步も二歩も踏み込んで、心の教育をどのように展開していくかが非常に大事といったようなご発言がございました。

資料1につきましてのご説明は以上でございます。

[総務部長]

続きまして、資料2、中野の学校教育の主な取組みにつきまして、指導室長から説明をお願いします。

[指導室長]

それでは、資料2、中野区の学校教育の特徴についてご説明いたします。

中野区の学校教育の特徴としましては、それを支えるタテとヨコの連携が強固であるということが挙げられると思います。まず、タテの連携といたしましては、新しい学習指導要領や第3次中野区教育ビジョンでも重視されている学びの連続性に留意した、保幼小中連携教育があります。具体的な取組みとしましては、小中学校では乗り入れ指導やオープンキャンパスが行われ、中学校へ進学する小学生の不安を取り除くなど、その接続を円滑にするとともに、小中学校教員の情報交換や相互理解に大いに役立っていると思います。また、幼稚園、保育園等と小学校では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を共有し、ともにその接続を円滑にするアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの研究開発等をしているところでございます。

次に、ヨコの連携といたしましては、中野区の強みである地域の支えを生かした教育を挙げることができると思います。具体的には学校評議員制度、学校支援ボランティア制度などのほか、地域の教育力を学校教育に取り込む試みがなされており、効果を上げているところでございます。

こうしたタテヨコの連携の基盤となっておりますのは、中野区が「知」「徳」「体」の中で一番重視している心の教育、生命や人権を尊重する態度を培う教育でございます。このような取組みを通して、価値観が多様で変化が激しいグローバル社会、高度情報化社会を主体的に生きていくための基盤となる力、「知」「徳」「体」からなる生きる力を、子どもたちに身に付けさせていこうとしていることが中野区の教育でございます。これは新旧学習指導要領の理念にも通じるところでございます。

私からの説明は以上です。

[総務部長]

資料1、資料2の内容につきましてご質問などがありましたらお願いしたいと思います。

よろしいでしょうか。それではご質問がないようでしたら、ただいまの説明を踏まえま

て、「中野の教育がめざす人物像について」を中心にご協議をいただきたいと思いますが、参考に現行の教育大綱における人物像について、ご説明したいと思います。企画課長から説明をお願いします。

[企画課長]

それでは、資料3、現行の中野区教育大綱におけます「中野の教育がめざす人物像」をご紹介します。人物像は4点ございます。1点目が自らの力で道を切り拓く、進取の気概を持った人、2点目が多様な人間性を認め合い、思いやりにあふれる人、3点目が公德心に富み、社会に役立つ人、4点目が家族、わがまち、そして自らの祖国を愛する人、以上4点でございます。

資料3のご説明は以上でございます。

[総務部長]

現在の教育大綱には、以上のめざす人物像について記載されているという形になってございます。これに対しまして、区長が考える中野の教育がめざす人物像について、区長の方から説明をしていただきます。

[区長]

私が考える中野の教育がめざす人物像について、少し時間をいただいております。ただければと思います。

現在の教育大綱が策定されて2年が経過したわけですが、教育を取り巻く環境が変化の中で、中野の子どもたちには3つの力を付けてもらいたいと考えております。1点目が「多様性への寛容さ」です。中野区はサブカルチャーなど多様な文化がありまして、国籍や障害の有無などを超えた多様な人々が暮らしている地域風土があると思っています。この多様性、ダイバーシティにあふれたまちとして、あらゆる個性を受け入れる寛容さを子どもたちには身に付けてほしいと考えております。

2点目が「未来を切り拓く力」ということで、中野は人生における出発や再出発、人々の挑戦を常に応援するまちでありたいと考えています。急速な情報化や技術革新など様々な社会的変化が見込まれる中で、新たな価値を創造できる人材の必要性が高まっていると考えております。中野の子どもたちには、未知の状況にも対応できる思考力、それから判断力

を身に付け、自ら未来を切り拓いていってもらいたいと考えております。現在、人生100年時代とも言われていますけれども、大人になって人生の第2ステージ、第3ステージを迎えても、幅広い視野と関心を持って学び続ける力を養ってもらいたいと考えております。

そして、3点目が「多様な協働と協創」という点です。持続可能な地域コミュニティを中野区で構築して、地域の力を高めていくためには、誰もが気軽に地域とつながって、様々な主体が立場を超えて協働する。そこから生まれる協創を推進していくことが大事だと考えております。子どもたちには地域で行われている様々な活動に興味を持ってもらって、みんなで協力して成し遂げることの喜びというものを感じてほしいなと思っております。改めて中野の教育がめざす人物像について、教育委員の皆様と議論をさせていただきたいと思っております。

[総務部長]

それでは、今のご発言も含めまして、それぞれご意見がございましたらお願いしたいと思います。

[田中委員]

3つの力を身に付けてほしいということを確認に示していただきましたが、特に1点目で多様性への寛容さということで、この前のときにも少し話が出ましたが、中野の特徴を踏まえて、この中野という地域の特性の中で、子どもたちがどういうふうに育ってほしいかという部分が、この文章からすごく分かりやすく、中野らしい人物像を目指すという意味では、ここの部分は良いなというふうに感じました。

また、現行の教育大綱のめざす人物像の中で、家族、わがまち、そして自らの祖国を愛する人という部分がありましたけれども、その部分がここの中に少し、やはり子どもたちにはこういった特性のある中野で育って、中野を愛してほしいというような形が入ると、より中野らしさというのが出るのかなと感じました。

[伊藤委員]

1点目の多様性への寛容さということなのですが、おっしゃっていただいたように、本当に中野はサブカルチャーや様々な方がおられるというのがとても魅力で、そこで育つことの意味というのはすごく大きいと思っています。ですので、それを多様性への寛容さ

と言ってしまうのがもったいない気がしていて、多様性を理解し、個性を受け入れる寛容さを持つということは当たり前で、むしろそれを前提として多様性から学び合うとか、多様性から自分も関わるし、みんなで協働して新たにつくっていくというふうになると良いかなと思っております。ただ、協働ということが3点目で述べられていて、そこでの多様というのは様々な協働という意味なので、そこでの調整が必要かとは思いますが、寛容さと言ってしまうと、ちょっと理解すれば良いというか、色々な人がいても良いよねというような、ちょっと離れた感じといいますか、多様性について、自分もその中に入って学んでいくというようなインパクトが少ないように思いました。教育大綱の方の多様な人間性を認め合いというのは、人間性を認め合うということですから、これはこれで良いと思うのですが、多様性への寛容さというのは、子どもにはどうかと。むしろそこから学んで行動できるよなということ考えていただけると良いかなと思います。

[区長]

多様性に関して、もう一步踏み込んだ形ですね。

[伊藤委員]

そうですね。同様に、未来を切り拓く力というところでは、思考力や判断力ということは、今後も学習指導要領等でも重要なところだと思いますし、幅広い視野と関心と学び続ける力ということも大事だとは思いますが。

あともう1点付け加えるとしたら、現在の大綱を拝見すると、思いやりとか、社会に役立つとか、祖国を愛するとか、やはり人物像としてすごく分かりやすいなというふうに思っています。区長ご提案の点というのは、むしろそういう人物像を核として、それをさらにコンピテンスベースではないですけども、そこをベースの人物像としながらそこに向かっていく、どういう力が必要かという力の方のことを述べておられるのかなというふうに思いました。

[渡邊委員]

大綱ができてから2年経過してというお話を受けたのですが、教育振興基本計画として教育ビジョンというのがあって、大綱というのは、やはりその上にある理念みたいなものになります。ここについてはもともと大綱を初めてつくりなさいと言われたときに急

いでつくった。その中でも一生懸命時間をかけて、その中で最初に大綱をつくる時に大筋ということですから、一番の大筋はどういうものかということ、時代が変わり人々の暮らしが変わっても、どうしても人間の本質が変わらないそういったものを目指そうということなので、時代の変化に迫いついて話を変えろということとは、趣旨が少し変わるかなと思います。

ですから、そういう意味で今、区長に言っていただいた人物像というのは、「多様性の寛容さ」ということでは、現行の教育大綱がめざす人物像の中の「多様な人間性を認め合い、思いやりにあふれる人」を、区長の言葉として表現された。2点目、「未来を切り拓く力」というのも、「自らの力で道を切り拓く」という、現行の教育大綱がめざす人物像の中の1つ。そして3つ目、「多様な協働と協創」というのも、ここがやはり「家族、わがまち、そして自らの祖国を愛する人」のところから、表現を少し変えたのかなというイメージを持ちます。

現行の教育大綱の「中野の教育がめざす人物像」の次に「中野の教育のありかた」がありまして、「未来を拓く力を育む教育」とか、「多様性を理解し、自他を認め合う社会を目指す教育」というようなこと、それから「社会を築く力を育む教育」と、「確固とした価値観を育む教育」というようなことも記されています。その中でこれをうまく整理をすると、なかなか言葉を見つけるのは難しいかなと。もうちょっと考えて、この4つの人物像を変えろとしても、どれもいけないとは言えないし、そうするともう1つ加えることも考えられます。そうすると、多様な協働、協創というところをどういう表現にするか、今回の中に含まれないとしたら、このあたりをどう表現するかということですから。

この人物像というの難しいのですけれども、この中に健康な体とかそういうものも加味したい。人物像って、健康な体が人物像かどうかというのは、非常に難しくて前のときも思っているのですけれども、「知」「徳」「体」の中で、「知」というのは結構分かりやすいです。健康というのでも分かりやすいのですけれども、それを人物像かと言われるとちょっと難しいので、僕は方法論の中に、健康な肉体というものも、少し教育の中には表現してもらいたいなというところがあります。まず、体が基本ですよという、そういうあたりもちょっとご検討いただきたい。

区長の目指す教育像というのはこういった表現で、こういうところを大切にしたいのだということが非常に伝わってきましたので、それに従って大綱ですから、この文書をどう読み込むかということになるのかと思います。あとは、どういう表現にしていきたいのかとい

うのは、やはり言葉の難しさがありますので、鋭意検討したいと思います。

[区長]

こうやって議論をしている間にもう少しこなれてくると思います。私も今、自分で話しても少し違うなと思うところもあったので、もう少し皆さんと議論をしたいと思います。

[小林委員]

人物像についてはまさに大綱ですから、区長の思いのたけというか、中野の区民に寄せる大きな期待の表れというふうにこの3つを受け止めました。

これを生かすには文言のブラッシュアップというのは当然必要であるというようなことだと思うのですが、前の教育大綱を改めて見てみますと、実は私は、道德教育を中心に色々と勉強してきた経緯がありまして、日本の道德教育については、世界が非常に注目しているところです。心の教育をどのように学校教育に展開していくか。この学習指導要領にはよりよく生きるために大切なこととして22の項目が示されているのですね。大きくくくると、まず自分自身がよりよく生きていくためには、自分自身に対してどうなのかということなのです。そうすると、現行の教育大綱でいくと1番目がその自分自身のことに当たるのですね。

次に何があるかという、今度は対人関係なのです。自分と人との関わり、そういう点では、この2番目の多様な人間性を認め合うというような部分が出てくる。

次に、3番目のポイントは、自分と集団や社会との関わりという、だんだん同心円的に広げていくわけなのです。そうするとこの3番で公德心が裏づけとなって社会貢献できる人、社会で役立つ人、そして、自分自身と対人と集団社会では包含できないような、例えば共通的なもの、人の命や自然を大切にするとか、人間の力を超えたような畏敬の念を大切にするとかいうものが、1つのグルーピングになっています。これはなかなか大綱に落とし込むのは難しいかもしれません。ただ、命の大切さとか、自然を大切にするとかということは、場合によっては入り込む余地はあるかもしれません。

そういうふうに考えてみると、今回、区長にお示しいただいた3点のうち、1番目と2番目は、現在の教育大綱の1番目と2番目にかなり包含される部分があって、そういう点ではこれはある程度表現は違うにしても、継続的な1つの課題だと。ただ、やはり3点目に区長の新しいお考えの1つの大きなポイントがあるかなと。そこでは、地域というものを大事に

しながら協働、みんながチームで働くことだとか、それから協創、要するに共にみんなで考えていく。この辺のキーワードをうまく盛り込んでブラッシュアップした言葉が出てくると、非常にアピール度が高いかなというふうに考えます。

ですから、方向性として、例えば順序は個人的に見ると、やはり2点目が一番先に来て、次に対人的な部分として多様性とかそういうような部分が来て、そして3点目に区長の協働、協創という部分の思いを、どのように具現化し、言葉として落とし込むかという、そのような印象を持ったところです。

ただ、当然、偏りだとかそういうものはあってしかるべきで、まさに前回も出てきたように総花的なものではなくて、中野の教育はこれなのだということをひとつアピールするような、そういう部分があって良いのかなというふうに思っています。

[教育長]

区長のお話を聞きまして、やはり今までの人物像で入ってきていない部分は、3番目の多様な協働と協創かなというふうに思います。今の学校教育の中でも、互いに対話的に学び合っていて、何かをつくり合っていくというような方向性がこれからの世の中では大事だということに取り組んできている、取り組んでいこうとしている方向性もありますので、この部分は集団の中での関わり合いの力になるのかもしれませんが、ここは教育の中でも非常に大事にしていきたい部分だと思います。

区長のお考えのように、まちづくりですとか地域づくりについてでも、持続可能なということを見ると、大事な部分なのかなというふうに思います。ただ、人物像に表わしていくときには、どういう言葉が良いかということを議論していければと思います。

[区長]

伊藤委員からご指摘いただいた多様性については、やはりダイバーシティという考え方を中野区の中心的な特徴として捉えたいと思っているので、そこをどう力に変えていくのかということ、どう表現していくかを、もうちょっとブラッシュアップしていかないといけないと思います。

それから、小林委員の順番の整理の仕方というのは、確かにそうだなと思いました。自分自身から始まって、関係性、それから社会とコミュニティというところで整理すると、より分かりやすいと思いました。

多様な協働と協創、この言葉を使うかどうかは別として、やはりこれからは多様性がある中で他者との関係性をどうつくっていくかというところの能力が非常に大事で、まさに中野区の職員にもその力を付けなくてはいけないという話をしていますので、それがまちづくり全体として、教育上も必要なのではないかなというところではあります。

それから、渡邊委員の健康の話も、非常に大事だと思っています。私が前に障害福祉の関係で、保健福祉審議会に出ていたときにも、障害者の健康というところは、あまり議論がされていないということもあって、どこかで考えていかななくてはいけないのだろうなというのは思っていましたので、今のご指摘もハッとしました。

あと、田中委員がおっしゃるとおり、中野の個性というものをどう見せていくかというところが、選択と集中ということで、この理念でとがらせるのか、それとも手段となる教育の中身でどうとがらせるのか、色々あるとは思いますがけれども、いずれにせよ、ほんわかした、何でも言っているような感じではない方が良いのではないかなということは思いました。

[小林委員]

現在、新しい学習指導要領を来年度小学校から本格実施していくわけなのですけれども、今回の学習指導要領の一番の目指すものというのは、学びの方向性というものをしっかりと位置づけていることです。今まではどういう知識をもっていますかとか、どういうことができますかといった技能が重要視されてきましたが、これはもう昔の考え方です。ただ、それはそれで大事です。でも、こここのところ学習指導要領で子どもたちに何が重視されてきたかという、そういう獲得した知識や技能をどう生かしていますかということですね。要するに生活の中に生かしていますかと、これが非常に問われていたのです。今回の学習指導要領で、実は踏み込んでいるのは、いかに社会や世界と関わり、そして、自らよりよく生きる力を培っていくか。やはり原点は自分がグローバル社会の中で、いかに関わって、自分がよりよく生きる力を培っていくか。そうすると、やはり人物像というのは、イコールその子の人生にとってよりよく生きる力になっていくのだという、その結びつきが明確でないと、私は宙に浮いたものになってしまうかなというふうに思います。

また、そういうことを意識して示していただければ、今度は教育委員会で具体的に政策展開、事業展開をしていくときに、教育大綱が絵に描いた餅ではなくて、これを実現するためにここではこうやるのですよということになると思います。そのつなぎは何かと言うと、生きる力、よりよく生きていく力という部分が、一番のポイントになっていくと思いますので、

それを常に念頭に置いたブラッシュアップが必要かなというふうには感じています。

[区長]

よりよく生きる力ですね。次の「中野がめざす教育」で触れるのですがけれども、今、キャリア教育をもっとやっていくべきだという議論があるではないですか。やはり自分が社会に立ってどういう役立つ人間になるかとか、そういうことをもっと若いころから考えさせるようなことがあったら、自分はこういうところが得意だから、こういう世界で生きてみたいとか、それもよりよく生きる力につながるのではないかなというふうには思いますね。

[小林委員]

そうですね。

[区長]

難しいテーマですけれども、意識していきたいと思います。

[田中委員]

人物像の話なのですけれども、こうやって議論をしていて、子どもたちにこういう人物に育ってほしいというイメージは、私自身読んでいて受け取れるのですけれども、前回の発言の中にもありましたけれども、区民全体に地域に関わってほしいという思いを、区長は持っていらっしゃるのかなと思うので、どこかにそういう、子どもを育てる、教育する方向だけではなくて、区民全体がこういう方向に向かって継続的な学びをしていくというようなところを、何かうまく表現していただけると、より広い効果になるのかなと感じました。

[小林委員]

教育大綱からは少しそれてしまうかもしれませんが、資料4「区長が考える中野の教育」で、時代の変化に対応した教育ということで、ICT教育などが出ています。これはこれからの時代を切り拓いていく上で不可欠なものだと思いますが、これは従来よくお話ししているとおり1つの方法論であるわけですから、肝心なものは、例えばどれだけタブレットが普及したのというのが、実際それは普及したことで満足してはいけないわけで、それをどう使いこなしているかという、教員の意識の問題だとか、子どもたちへの指導のあり

方だとか、それから、もちろん子どもの意識が高まっているかという。そういう点ではやはり、今後大綱だけではなくて中野の教育をより良くしていくためには何が必要かということ、その教育を担う教員を初め、私たち職員全てが、意識を改革していく必要があると思うのです。

もちろん従来から続いてきた大切なものを続けていくということは、これは重視しなければいけないのですが、常に時代の変化とともに新しいものを追い求めていく。言ってみればよく言われる不易と流行ですけれども、そういった部分ではやはり区が先頭に立って、しかるべき教育改革を推進していかないと、学校は良くなりません。学校が良くなりませんというのは、子どもたち、良い人間も育たないということになると思いますので、そういう部分を常にどこかで持っていく必要があるかなというふうには、非常に思っています。

[総務部長]

それでは、中野の教育がめざす人物像についてでございますが、様々ご意見を出していたというところで、次に、今、小林委員の方からもご意見をいただきました中野の教育につきまして、少し議論をしていきたいと思っております。区長が考える中野の教育についてでございますが、まずは区長の方から少し説明していただけますか。

[区長]

前回、教育大綱にあわせて基本理念であるめざす人物像と、その手段である教育を分けて議論をしようというお話もありました。まだ混ざっている部分も若干ありますが、4点、中野の教育について私が力を入れたいと思っているところを書かせていただいています。

1点目が多様性、先ほども出てきましたけれどもダイバーシティ、それからインクルーシブということで、そこに力を入れた教育をやっていったらどうかということと、やはり自己肯定感。日本人が自己肯定感が低いか高いかということが議論されているのは承知してはいますが、低いか高いかではなくて、この世の中を生きていくには、自己肯定感をみんなが持って、自分が必要な存在であるということ認識しているということは、私は非常に大きいのではないかなと思っております。ですから、自己肯定感をみんなが育める、そんな教育が必要なのではないかということです。

ユニバーサルデザインの考え方と書いてありますけれども、まさにこれからどんどん外からも人が入ってくるでしょうし、色々な多様性を持った人たちと関係性を築いて、故郷と

いうのをつくっていかなくてはいけないということなので、それに対応できるような人物像ということで、そう書かせていただいております。

2番目が、地域に支えられて育つ、そして地域に貢献できる子どもを育むということです。実際に今、中野区の例えば町会だとか民生児童委員とか色々な地域で活動される方とお会いすると、もちろん外部から来た人もいらっしゃるのですが、中野で教育を受けて、中野のために自分は何かをやらなくてはいけないと思って活動をしている人が圧倒的に多いのです。やはりそういう教育は中野の将来にとって必要なのだろうなと思っています。当然、グローバルに活躍する人たちも出てくるのですが、やはり地域で育って、この地域に恩返ししたいなと思ってくださっているのを見まして、そういう教育も大事なだろうなということで書いております。

そして、地域の皆さんも子どもたちを非常に大切にしている気持ちが強いです。ですから、心もそうですし、あとは実際にコミュニティスクールみたいな形で、地域の人たちが学校を支える、そんな環境をどんどん進めていったらどうかというところが2番目です。

3番目が、豊かな情緒や個性、価値観ということで、勉強だけではなくて伝統や文化、芸術など、そういう文化にきちんと触れることによって、豊かな情操教育を行うということと、あとは自分でそれを表現できるような、芸術とかで自分を表現するというのも、子どもの頃からできるような、そんな教育が良いのではないかとということです。

4番目は、もう小林委員からご指摘のとおりです。まさに今はICTがどんどん進んでいきますけれども、それを生かす力も含めて、やはり子どもたちには最先端のそういうものは身に付けてもらいたいなというところです。現場、教員の皆さんも含めてICTに対応していくということで、一気にここはやっていきたいなというふうに思っております。また、キャリア教育と先ほど言いましたけれども、自己肯定感とか、それから自分の将来の職業的な、社会に対してどう貢献するかというような、そんな視点からキャリア教育を推進していったら良いのではないかとということが4点目でございます。

これについても皆さんからぜひご意見をいただきたいと思っております。

[総務部長]

ご意見ありましたら、よろしくお願いいいたします。

[田中委員]

質問ですけれども、先ほど区長が人物像のところでも3つの視点を話されました。それと、区長が考える教育ということで、ここでは4つの柱が出ているのですけれども、その辺というのはあえて別に考えられたのか、それとももう少し整合というか、あえて付けた方が分かりやすいのか、その辺はどんなふうにつくられる側で考えられたのか教えていただければと思います。

[区長]

人物像と、人物像を実現するための教育というところで、理念と手段は違うという議論があったと思います。そこを分けて考えようと思っつつくったものなのですけれども、そんなに明確に分かれている感じもしないですね。そこはそういう状態になっているということをお前提で、議論をしていただければと思います。

[渡邊委員]

教育というのは本当に幅がすごく広くて、1人の人間を育て上げていく、子どもから人物を育てる、そういう意味では先程のめざす人物像という理念が、子どもにすごく影響力を与えるということがあります。今、中野区の教育は、教育委員会の人たちが一生懸命頑張っていてやってくれていると思いますし、学校の現場でも、先日、中野本郷小学校も行ってきまされたけれども、非常にそれぞれが頑張っていてやっていると、そういうのはとても喜ばしく思うのです。

ただ、こういったところに区長の影響力というのは非常に大きいものがありまして、多様な中にあるところに、今これをやっというふうなことを示していただいたのは、非常にありがたく思います。これをどうやって具体化していくか、どれが一番重要で、どれから手をつけるかという話はなかなか難しいところなのですけれども、ユニバーサルデザインの考え方については国籍、文化の違いとか、これに関しては順次学校の方で結構やられていて、これで特徴的な何か今から加えるようなものが果たしてどうかと言われると、今はそんなにはできていないかもしれない。でも、区長はこの考え方を大切にしているから、これを前面に打ち立てた学校の教育というか、現場において、こういうことを重要視して考えていただきたいということをお、学校の現場に伝えるということで、それぞれの認識は高まるのではないかなと思います。

また、個性を生かすということに対しては、中野区の特徴ある学校教育というのを考えて

いかないと、個性に合ったという、そういう表現をするのであれば、それをどういう形で展開していくかということ、僕らとしては一生懸命考えていきたいなと思います。

地域の貢献に関しては、先程指導室長が言われたように、地域とのコミュニティに関しては、中野区の学校は非常に頑張っております。これを一層ということであれば、民間のノウハウとかアイデアとか民間の活用ということに関しては、まだ余地があるかなど。そういったところを整理して、少しずつもうちょっと力を入れていきたいなと思います。

3番目の個性とはこれは価値観ですから、そういうものを育むためにはどういう教育かというその手段とか、特徴ある学校づくりとかそういったものが必要で、4番目が、やはりこれがすごく悩みの種で、区長が旗を振っていただけると非常にありがたい。学校のICTについては、言葉だけが先走っていて、なかなか現場の中に浸透していない。電子教科書が出てきている時代となってきた、そういったツールというのもひとつ重要なファクターであるのに、学校現場では、それに長けた人がある程度配置されないと、我々の頭で考えているようになったら良いなというのは、ちょっと違うなというのを常々感じています。

やはりこれを使ってやりなさいというのと、必要があつてつくったのはちょっと違って、どちらかというところを使ってやりなさいと言われるとなかなかうまくいかない。これが必要だからこれを使おうとなると、どんどん活用が増える。そのあたりの活用をしていくべきかと思いますが、でも、現時点では与えるからこれを使ってやれみたいなことを言われると、その活用方法が難しく、そうなるとうやはりそれを専門にする人員の配置とかそういうことが大切になるのかなと思います。また、そういったところの予算や配置を進めていく上では、どうしても区長の力を借りざるを得ないというところがあるかなと思います。

[小林委員]

この4つに関しては、教育委員会としても真摯に受けとめて、具体的に展開していく必要があるかと思います。先ほど指導室長から資料2のご説明で、中野の教育のタテとヨコの強みということで、タテというのは保幼小中連携ということですね。ヨコは地域で、中野の学校と地域は、地域の方々も非常に協力的にやっただいていて、大変ありがたい状況なので、今あるものをどういうふうに生かしていくかということで、大いに伸びしろはあると思います。

どういう形でやるかというのは、様々また今後検討していかなくてはいけないと思いますが、タテの連携については、確かに保幼小に関しては、中野は相当先駆的にやってきた経

緯があります。しかしながら、実情を申し上げるとここに書かれてあることは、もう既にどの地域でも当たり前のようにやっていることばかりなのですね。そういう点では、中野は保幼小、最近は中学校も入れた連携を掲げているということは、少し踏み込んだ展開をしたいなど。例えば、学校教育法第1条が改正されて、義務教育学校が正式に認められたような状況の中で、やはり中野としてもまさに区長が言われている、自己肯定感とか心の教育を推進していくためには、実際に小と中が一体となった学校というのは非常に有効性があるというのを、私自身がそのようなことをやってまいりましたので自信を持って申し上げますけれども、もちろん従来の小学校、中学校の良さがありますので、それをもちろん残しつつ、やはり中野の多様性という点では学校教育の多様性があるって、例えば従来の小学校があり、従来の中学校があり、そして義務教育学校がある。そういうような展開も今後考えていく必要があるのではないかなというふうに、私は個人的には思っています。

[伊藤委員]

色々伺ってきて、私なりの整理として理解しているところは、現在の大綱にある人物像は、理念的な核となるもので、それだとちょっと、そこから教育というふうになるときに、隔たりがあるのでそこを結ぶ特に付けたい力、理念を具現化するような形でのコンピテンスとして、先ほどの3点を考えていただいて、さらにそれをそういう力を付けてもらうために、どういう教育をこちらが用意しようかというところで、最後の資料だというふうに理解しています。

その中で、2点大きなこととしては、やはり持続可能な社会ということはすごく大事だと思います。今、大学などは、持続可能な社会に向けた教育の何項目かがユニバーサルに出ていますよね。世界、グローバルに、そのこの項目に当たる授業だとか、授業で色分けがされているような大学とか色々ありますよね。というふうにして、やはり持続可能な社会ということも見据えた形での教育の組み立てということを考えていただけたら良いかなと思います。あともう1つは、折角ですので、例えば分かりやすく言ったら芸術に親しむとかいうことでも、1回見に行くとかいう単発ではなくて、中野本郷小学校でのグリーンガーデンは、すごく子どもたちが色々な学びをしましたけれども、やはり1年間を通して作物をつくるという活動を6年間継続するというのは、すごく子どもたちの体験になっていくと思います。そういった蓄積というふうな、一過性のものでないようなそういうしっかりとした体験が、子どもに根づくような教育というこの2点は、ぜひ目指していただきたいなど、中野で

育った者として思っております。

その上でなのですけれども、何点か具体的なことを簡潔に述べると、1つ目のダイバーシティのところは、ユニバーサルデザインの考え方に基づいて安心して学べるとなっているのですが、安心ということもすごく大事で、本当にいじめの防止から何から安心してというのは、最初に入れていただきたいのですけれども、さらにユニバーサルデザインというところが、等しくというふうな、機会の均等ということだと思うので、体を動かすのが得意とか、音から聞くのが得意とか、色々な好みがある中で、色々な子どもたちが色々なものを一から学べるというような考え方も今出てきておりますし、そういう等しくというかそういったこともぜひ入れていただきたいし、その次の個性や特性に応じて、支え支えられるというのはすごく大事だと思うのですね。相互性ということも持続社会のキーワードだと思います。ただ前段は、なぜか継続的に支援されるという、支えられる仕組みというふうになっているのですが、これ、支え合う仕組みというか、支えながら支え合うというふうな、そういうより主体的な見地に立った文言というのが、現在必要とされているのではないかなと思いました。

それから、地域に支えられるというところでは民間の持つノウハウとなっているのですが、私は時々思うのですけれども、やはり教育って、教育の場でないと培ってこられないノウハウとか、様々な実践値がございます。そのことがすごく民間の持つノウハウ以上に重要なのではないかと考えていて、むしろ民間が持つといったときには、ノウハウよりもソーシャルキャピタルという考え方は大事だと思っていて、社会資源ということで資源としての民間の持つものを、もっと教育に振り向けていただくというような、そういう考え方も良いのではないかなと思いました。

それから、3番目については、先ほど申し上げましたように、これは本当にとっても大事だと思うところで、認知的な能力だけではなくて、体力とか芸術的な表現といった、いわゆる知能テストという狭い認知的な力で測られるものではない力が、非常に今重要だと言われているので、ここはさらに工夫をしていただいて、そういう新たな概念も組み込んでいただくと良いのかなというふうに思いました。

要は、ICTとか生きる力、コミュニケーション、先ほどの3番目で申したことと同時に、同じように認知的ではない力ということであるかと思えますし、キャリア教育に関しては、基盤となる能力や態度だけではなくて、たしか十何年前かの中央教育審議会で自己理解とか、働くことへの理解ということも書いていると思うので、1から4までそうなのですけれ

ども、これまでの教育で言われてきたことというのを踏まえた形で言っていただくと、先生方にも分かりやすいし、非常に時代に即応した良いものになるのではないかなというふうに、僭越ながら考えました。

[区長]

皆さんからいただいた意見から何点か思ったことは、まず、小林委員の学校の多様性もあって良いのではないかというのは、まさに私も共感しております、中野区では小中一貫校も含めた多様な選択ができるのだというのは、大事だろうと思っております。

それから、伊藤委員のSDGsについては、現在基本構想をつくっている中でもSDGsとの関係性はどうかということ、やはり議論をしなければいけないということで課題として出てきています。当然、これも意識をした上で考えていかなくてはいけないと思っています。

それから、ダイバーシティというところは、ユニバーサルデザインと一部ぶつかる部分もありまして、多様性を突き詰めていくと、結局、ユニバーサルで皆さんが同じものを適用しなくてはいけないというところとぶつかるのだなというのは意識しています。ただ、そこは多様性、ダイバーシティを中心に考えていくべきなのではないかなと思っています。

それから、民間ノウハウという幅広い意味があります。当然社会資源としての意味も大きいかなとは思っていますが、それは今まであまり活用できていない部分もあるのではないかなということも感じています。ただ、活用するとなるとやはりコーディネーターというのが必要です。それが学校だけではなくて、行政としても、スキルも人材もなかなか足りないということを思っていますので、そこをどうやって学校、それから地域の中で力を付けていくかというのが、方法論ですけれども、難しいなと思っています。

[伊藤委員]

ユニバーサルデザインというのは「同じこと」というふうに、私が大学で教えていて学生にも誤解されてしまうのですが、ユニバーサルデザインは多様性を踏まえて、どういう多様性を持った人でも多様に学べるということなので、1つのものをつくるのではなくて、たくさんものをつくるというような、1つにするのではなくて、同様なダイバーシティの中でそれぞれの人がアクセスできる多様なものを用意するという考え方なので、1つのものを用意してそこでみんなでやりましょうという話は、ユニバーサルデザインの反対の考え方

になっていくということなので、ユニバーサルデザインと多様性は対立するものではないのではないかというふうに思います。

[総務部長]

それでは、これまでの議論をまとめさせていただきます。

まず、人物像についてのご議論の中では、地域を愛するという考え方についての反映にご意見がありました。

それから、多様性については一歩進んで、自分を高めるという視点が必要なのではないかとということでの人物像の表現というご意見がありました。

それから、渡邊委員から健康な体という「知」「徳」「体」の中で、「体」の部分というところでの表現ということについてのご意見がございました。全体を通して、表現については、本日出されたご意見も踏まえて、さらに表現、言葉をブラッシュアップしていくことが必要だということがございます。

小林委員からは、まとめ方として自分と人との関わり、それから社会との関わりといった広がりがあるような中でのまとめ方というご指摘がございました。また、中野の教育についてでございますけれども、展開として情報化、ICTの課題については、今の学校教育の中でも課題であるというご指摘がございました。ICTの活用について、やはり良い人材を導入して、中野の特徴にしていくべきではないかというご意見がございました。それから、保幼小中といったタテの連携といった中での踏み込み方を一歩進めた形の中野の教育というあり方についてのご意見がございました。

伊藤委員からは様々なご指摘がございましたけれども、持続可能な社会を見据えた教育の組み立てが大切ということですか、あるいは芸術については長期的な取組みで蓄積されていく体験が大切だとか、あとユニバーサルでは等しく学べる視点、あるいは支え合う視点が必要だということ。それから社会の資源としての民間活用の視点、それから、やはり体力や表現力の視点といったところ。それからキャリア教育における自己理解の視点といったご意見が出されたところでございます。

本日の議論を踏まえまして、また資料をブラッシュアップして、次回のご議論につなげていきたいというふうに考えておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、以上で本日予定しました協議は終了いたしました。その他といたしまして、教育委員会から何かございますか。

ございませんようでしたら、本日の会議はこれをもって終了いたしたいと思います。ありがとうございました。

【午後12時02分閉会】